

県指定

所在地：菅

かんしききょう・かがみいた・かんれい

漢式鏡・鏡板・環鈴

文久2年（1862）3月、菅集落内ヨセワの坪を開墾中に、地下約1mの所から出土したものである。おそらく古墳の主体部に当たったのであろう。

漢式鏡は直径20cmの三角縁神獸鏡で、飛禽走獸文と方格半円帯の中に神仙と靈獸を配した、いわゆる三角縁画文帯対置式神獸鏡である。鏡板は裝飾に5個の鈴を付けた轡の一部で、環鈴とともに古代の馬具の一種であり、古墳時代中期から後期（5～6世紀）にかけて古墳に盛んに副葬されたものである。



漢式鏡



鏡板



環鈴



鏡板